

## 【 寄 稿 】

# 岩見沢市の外国人旅行者の誘致を視野に入れた 観光振興策について

社団法人 海外鉄道技術協力協会  
顧問 新井 俊一

## 1 序

平成 21 年（2009 年）8 月 12 日に韓国から国宝や重要無形文化財に指定されている演奏者を含む 30 人の舞踊団を招致して岩見沢市の市をあげての支援のもとに岩見沢市観光協会が主催して“韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢”が開催された。



公演のポスター

岩見沢市としては、これを契機に日韓両国の文化交流や相互理解の推進を図るとともに、本公演が韓国からの旅行者の岩見沢市への誘致のきっかけともなり、今後の観光振興の推進の可能性を探るために 13 日には、岩見沢市観光協会の主催で韓国舞踊岩見沢公演記念シンポジウム「新たな観光の可能性を探る」が開催された。

今回の公演及びシンポジウムの企画・立案を私が顧問をしている会社が引き受けたので、私が観光振興の専門家として現地へ赴き、必要な資料を収集し、現地調査を踏まえて岩見沢市の観光振興方策について検討することになった。

## 2 岩見沢市をめぐる諸状況

岩見沢市をこれまで訪れたことはなかったので、観光振興、特に外国人旅行者の誘致による交流人口の増大による地域振

興の可能性を探るために岩見沢市の観光をめぐる現時点における諸状況を分析してみる。

### 1) 岩見沢市の諸次元

岩見沢市の諸次元は次の通りである。

岩見沢市は北海道中央部にある市で空知支庁の所在地。札幌市の東北東に 30km 弱のところのところに位置し、2006 年には栗沢町及び北村を編入合併した。近年は札幌市のベッドタウンとなっている。南幌市、江別市、美瑛市、三笠市、夕張市などと境界を接している。

市域面積は 481.10km<sup>2</sup>、総人口は 91,191 人、人口密度は 190 人/km<sup>2</sup>、財政力指数は 0.38、経常収支比率は 88.1%、ラスパイルス指数は 95.1 である。明治の頃に山口県、鳥取県ほか 10 県からの士族の集団移住が行われている。

昔は 石炭の鉄道輸送の結節点として繁栄（1961 年東北以北最大の操車場完成、1980 年に廃止）しており、空知支庁が岩見沢に設置されている。かつて、万字炭鉱、美流渡炭鉱があったが、現在は廃坑となっている。ばんえい競馬が 2006 年まで行われていた。

人口はわずかではあるが減少傾向にあり、国道 12 号線沿いに郊外商業施設の出店が目立つが、一方岩見沢駅前を中心市街地の空洞化が顕著である。

北海道でも有数の豪雪地帯（1 シーズンで 8 メートル近い降雪量）であり、気温最高 34.7 度、最低 -24.3 度である。

米、タマネギ、白菜、大豆等の産地であり。水稲収穫量 50,700 t、水稲作付面積 8,460ha は道内一（いずれも 2005 年数値）となっている

市内には豊かな自然と憩いの場（あやめ公園、利根別原生林等）が多く、【利根別川千本サクラ並木】は平成 19 年度郷土賞大賞を受賞している。

市の木はコブシ、市の花はバラ、市の鳥は鳩である。

岩見沢市の姉妹都市は、海外はアイダホ州ボカテロ市、オレゴン州キャンピー市及び黒竜江省阿城市玉泉鎮であり、国

内は山梨県南アルプス市及び富山県砺波市である。

教育施設としては、大学は北海道教育大学岩見沢校があり、芸術とスポーツに特化して1学年160名が在学している。岩見沢の駅前商店街を視察していた際に本学の学生が閉鎖店舗のシャッターに絵を描いている場に出くわしている。

駒沢大学付属岩見沢高校は野球の強豪校として知られ、全校で生徒200名の内90名が野球部員となっており、現在の頽勢をどう盛り返すかが課題となっている。

岩見沢農業高校は事項で製造した農産品、酪農産品を一般にも販売しており、好評を博している。

陸上自衛隊岩見沢駐屯地は陶芸窯、スキー場等があり、施設の一般開放も行っている。工作部隊なので海外派遣にも参加している。

## 2)アクセス

岩見沢には鉄道の特急、急行が全て停車し、高速道路も整備されていて主用空港から至便の街となっている。

ちなみに、千歳空港とはJR特急又は高速バス利用で1時間  
札幌市とはJR特急で25分間、高速バス利用で50分  
函館市とは札幌乗継でJR特急で4時間10分から30分  
旭川市とはJR特急又は高速道路利用で1時間  
となっている。

## 3)宿泊施設

岩見沢市の宿泊施設の整備は質量ともに立ち遅れている。このままでは海外旅行者を含めて岩見沢市を訪れる観光客の宿泊は札幌ということにならざるを得ず、観光客からあげることができる収益には自ずから限界があることになる。

ビジネスホテルとしてはウィークリーマンション・シペール、センチュリーホテル、ホテルニューオイカワ、ホテルニューカワチュウなどがある。

ビジネスホテルより水準が高いホテルは、三井グリーンランドホテル・サンプラザ(68室、6,500円から)、メープルロッジ(18室)等ごく限定されている。

いわゆる駅前旅館に該当するものとしては秋田屋旅館ほか10軒がある。

## 4)飲食

いろいろ調べたが、岩見沢を訪れた旅行者が是非足を運びたいという気になるような評判の高い飲食店は見当たらなかった。そこでインターネットを探したら、岩見沢市の「食べログ・ベスト20」が見つかった。ベスト20に上がっている店は、「清寿司」、「稚内花いちもんめ岩見沢店(回転寿司)」、「手打ちそば福松」、「小もろそば店」、「仙龍(ラーメン)」、「ラーメン専科羅妃炎総本店」、「春日食堂(ラーメン)」、「かまだ屋大和店(そば、うどん、ラーメン)」、「麺屋七彩(ラーメン)」、「らい久本店(ラーメン)」、「焼き鳥三船」、「未来亭(かつどん、カレー)」、「イタリア居酒屋オステリアみなみ」、「赤いリボン(ケーキ)」、「焼き

菓子工房カゼ・ハナ・ソラ」、「天狗まんじゅう(カフェ、和菓子)」、「喫茶ダック」、「プールミッシュ(パン)」、「モンパリ(パン、ケーキ)」及び「オムライス屋さん・喫茶・タッチ」であった。

北海道らしく、ラーメン店が多いのが目につく。寿司屋、うどん・そば店、焼き鳥屋、洋菓子屋、和菓子屋、パン屋、喫茶店、とんかつ、カレーと一通りそろっているが、ジンギスカンの店が全く載っていない。実際に街を歩いてみても料亭らしき建物はあったが営業している気配はうかがわれず、バラエティに乏しい感じであった。

土地の人に聞いたら、ジンギスカンは岩見沢市においては行催事の際に羊肉を購入して各家庭で調理するので、専門店には必ずしも必要とされていないということであった。

## 5)イベント

イベントは多種多様なものがあり、伝統的なお祭りも盛んのものである。「いわみざわ彩花まつり(7月)」、「きたむら田舎フェスティバル(8月)」、「くりさわ農業まつり(8月)」、「ふるさと百餅祭り(9月)」、「いわみざわ情熱フェスティバル(9月)」、「IWAMIZAWAドカ雪まつり(2月)」、「岩見沢春まつり、秋まつり」、「ウォーキング・フル・ハーフマラソン大会」、「全道玉入れ選手権」、「サケの稚魚放流壮行会(幾春別川)」、「文化財めぐり・歴史の道を訪ねて」、「岩見沢雅楽会」、「砺波獅子舞」、「合唱大会」、「交響詩“岩見沢”」などが紹介されていた。しかし、「岩見沢雅楽会」や「砺波獅子舞」のように土地の人に聞いてもあまり存在が認識されていないものもあった。

## 6)観光資源

観光案内を当たったら、「ふるさと毛陽(スパ・イン・メープルロッジ、フルーツランド)」、「美流渡アートパーク」、「いわみざわ北村温泉施設」、「北海道グリーンランドホワイトパーク」、「萩の山市民スキー場」、「利根別自然公園(大正池)」、「利根別川千本サクラ並木」、「利根別原生林」、「岩見沢公園バラ園」、「幾春別川(サケの放流)」、「岩見沢駅舎(駅舎のファサードを出資者の刻印のあるレンガ4,777個により作成、レール利用の正面の窓枠作成、廃レールを活用したオブジェが駅構内の壁面に飾られている)」、「JRレールセンター」、「旧操車場跡地(トラス橋、ターンテーブル)」、「栗沢クライム・ガルテン」、「宝水ワイナリー」等が観光資源としては紹介されていた。

これらの観光資源の幾つかは現地で実際に視察しているので、その評価は別途紹介することとしたい。

## 7)土産品

土産品としては観光案内では多種多様なものが取り上げられている。

菓子類としては、「バームクーヘン・めーぷるの樹(赤いリボン)」、「天狗まんじゅう(てんぐ饅頭本舗)」、「ゆあみ(ふじりん菓子舗)」、「サッポロビールチョコレート

(メルシー)」等が取り上げられている。

農水産物としては、「JAいわみざわ情熱米」、「サクランボ、ブルーベリー、リンゴ、ナシ(東井果樹園)」、「ジャガイモ、タマネギ、ニンジン(狩野自然農園、矢尾農場)」、「ハッピーベリー(濱本農場)」、「りんごジュース(岩見沢果実加工組合)」、「岩見沢農業高校製造品」、「スモークサーモン(市川燻製屋本舗)」、「秋鮭山漬け&甘口筋子(河口屋)」、「いわみざわキジラーメン(JAいわみざわ)」、「漬物(白菜)」、「手作り三升漬け(お茶の水農産加工所)」等が紹介されていた。

酒類は、「純米大吟醸‘ゆあみさわ’(JAいわみざわ)」、「宝水ワイン(宝水ワイナリー)」、「岩見沢ワイン(JAいわみざわ)」、「カボチャ焼酎‘南粋’(いわみざわ農業協同組合)」等が紹介されていたが、「純米大吟醸(ゆあみさわ)」及び「宝水ワイン」は十分にお土産になりうる水準のものであった。

焼き物としては、「こぶ志焼(こぶ志陶園)」がお土産とされていた。

### 3 現地調査

岩見沢市においては中心市街地にあるホテルに宿泊した。

滞在した11日から14日の間は、中心市街地を視察し、岩見沢駅前の商店街の疲弊が進みつつあることを実感させられた。

観光資源調査として「ふるさと毛陽(スパ・イン・メープルロッジ)」、「利根別自然公園(大正池)」、「岩見沢公園バラ園、展望台、パークゴルフ等」、「宝水ワイナリー」、「岩見沢駅」、「JR レールセンター」、「旧操車場跡」、「幾春別川」、「栗沢クライנגアルテン」、「まなみーる岩見沢市民会館」、「ハロonz岩見沢(帯広のばんえい競馬の場外馬券売り場ともなっている)」、「てんぐ饅頭本舗」等に対する調査を行った。



スパ・イン・メープルロッジ

「ふるさと毛陽(スパ・イン・メープルロッジ)」は岩見沢市の東の郊外にあり、温泉もあるレイアウトや施設の細部にかなりの贅をこらした施設である。レストランの食事も工夫されたものが供されていた。宿泊客の受入容量が大きくないのが難点ともいえるが、外国人旅行者の贅沢な要求にも応えられうるものとなっている。

「利根別自然公園(大正池)」は森林散策に適している。このような自然が市域の中に存在しているのが岩見沢市の特徴かもしれない。

「岩見沢公園バラ園、展望台、パークゴルフ等」はやはり市域の中にあり、かなりの資金を費やして整備している。特にバラ園はスケールの大きな素晴らしい施設であるが、季節がやや遅かったせいもあってか、咲き誇るバラを楽しめる状況ではなかったのは残念であった。展望台は上から岩見沢市を一望できるものであったが、全て木造であるので維持管理に経費がかかることが懸念される。

「宝水ワイナリー」はこじんまりとして施設で良質のワインを製造しており、周辺の葡萄畑とともに一幅の絵を構成していた。

「岩見沢駅」は、レンガ造りの全館エアコンディション可能な新設されたばかりの駅舎である。正面のファサドのレンガは寄付者の刻印入りのレンガが張り巡らされている。

「JR レールセンター」は現在 JR の事務所として使用されているので、内部の見学はできなかったが、レンガ造りの建物はかつて鉄道線路を造っていた施設であり、ヘリテージとして活用できると思われる。

「旧操車場跡」は現在は雑草の生い茂るまま放置されているが、駅裏(市域の西北部)にある広大な敷地は町興しや観光振興のために活用しうるものである。

「幾春別川」は駅裏にある小さな流れであるが、毎年ここでサケの稚魚の放流がなされている。

「栗沢クライנגアルテン」は札幌在住者が週末の園芸や農耕を楽しむための滞在用の家とともに貸し出されている施設である。こじんまりとした佇まいであった。

「まなみーる岩見沢市民会館」は、今回の韓国舞踊公演が開催された施設である。大変立派な施設であり、将来 MICE (Meeting, Incentive, Convention, Exhibition) 開催等の場として活用しうる可能性がある。

「ハロonz岩見沢」は帯広のばんえい競馬の場外馬券売り場ともなっている。将来的にはばんえい競馬の歴史を紹介するミュージアム等としての活用がなされれば、一つの観光アトラクションとなりうるのではないと思われる。

「てんぐ饅頭本舗」は岩見沢市の土産品として何を推奨するかを地元の方々に聞いたら、異口同音に勧められた店である。しかし、実際に訪れてみたら商品の饅頭の味は良かったものの、店構え、サービスぶり等あまりにも垢ぬけていないので少々落胆させられた。

### 4 “韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢”

8月12日に「まなみーる岩見沢市民会館」において、韓国から国宝や重要無形文化財に指定されている舞踊家や演奏者を含む30人の舞踊団を招致して“韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢”が開催された。

公演は昼の部と夜の部の2回行われ、昼の部には小中学生及びハンディキャップを負った方々約1,060名を招致し、夜の部には一般参加者約1,020名が来場した。

演目は、【秋月夜憬】、【散調合奏】、【立舞】、【帰天地】、【天下太平之舞】、【お日様、お月様の愛】及び【千年のひびき】であった。

韓国における一流の芸術家による公演は人々を魅了し、岩見沢市民に韓国舞踊のみならず隣国の文化に対する理解と親近感を深める効果をもたらしている。

本公演には北海道在住の大韓民団の方々の支援と参加を得ており、来日された舞踊団のみならず多くの韓国関係者に岩見沢市の温かいもてなしと文物に対する理解を深め、岩見沢市の存在を強く印象付けるものとなっている。

翌 13 日の夕刻に平安閣において開催された舞踊団との懇親会には、約 1,100 名の方々の参加があり、岩見沢市民と韓国側関係者との交流の第一歩が記された。

## 5 韓国舞踊岩見沢公演記念シンポジウム「新たな観光の可能性を探る」

8月13日に「新たな観光の可能性を探る」が岩見沢平安閣において開催された。シンポジウムの参加者はのべで約 250 名であった。

第1部の基調講演は元ジャラン編集長であったN氏が、これまで北海道各地で地元の食材と市民の参加により当地グルメを開発してきた経験を踏まえて岩見沢市においても同様の魅力ある当地グルメを開発してはどうかという提案を行った。

地元の食材を使い地元の1軒の店だけではなく地域としての名物料理を開発することが観光振興につながることを、料理の単価は1,000円以内、開発経費は300万円以内という具体的な数字を示しながらの紹介であった。



岩見沢駅前ファサド

第2部のプレゼンテーション&トークセッションにおいて、岩見沢青年会議所のH氏より、岩見沢市の歴史を顧みて、物資輸送の中継地点として湯浴みをしたという地名の由来から「いやし」及び鉄道輸送の集積地であったことから「鉄道」の2つを岩見沢の観光振興の進展を図る切り口としてはどうかという提案があり、岩見沢市の JR 新駅のファサドに寄付者の刻印入りのレンガ 4,777 個が張り巡らされているのを今後とも刻印レンガの寄付を継続して増やしていき、産業遺産である操車場跡地の再開発を含めて駅前の赤れんがが地域の整

備を発展させて行ってはどうかという具体策の提示があった。なお、小樽市及び三笠市には既存の鉄道公園があるが、「現時点においては観光資源としては必ずしも役立っていない」ということが、少々謙遜しすぎではないかもと感じられたが、アドバイザーとして参加された両施設の責任者から紹介があった。

## 6 SWOT分析の実施

外国人旅行者を誘致する際の SWOT (Strengths, Weaknesses, Opportunities 及び Threats の略) 分析を現地調査、市から提供された資料及びインターネットを通じて入手した諸情報等をもとにして行ってみた。

(S)札幌、新千歳空港、旭川空港に近く、鉄道、道路利用により1時間以内で到達可能。

市の中心部においても自然に恵まれ、花(桜、バラ等)の鑑賞、ハイキング、ゴルフ、スキー、公園、温泉等を手軽に楽しめる

米、白菜、タマネギ、ニンジン、大豆等の産地  
りんご、なし、さくらんぼ、いちご、ブルーベリーなどの果物の産地

日本有数の積雪量

公立、私立の学校が多く青少年交流が可能(米国の姉妹都市との交流等の実績あり)

日本酒、ぶどう酒、菓子、乳製品、酒、果物、野菜やその加工品などの多様な土産物の存在

ドカ雪祭り、ふるさと百餅祭り、盆踊り(郡上踊りに似る)等の様々なイベントの存在

大規模な行催事場(まなみーる)の存在

市立総合病院は黒字経営

新装岩見沢駅駅舎、レールセンター、ターンテーブル、トラス橋等の鉄道関係の産業遺産の存在

(W)周辺に札幌、小樽、富良野、旭山動物園等の有名観光資源が存在し、岩見沢市の観光地としての知名度(国内、海外とも)が著しく低い

駅前の中心市街地の衰退が著しい

韓国、中国(特に韓国)などとの留学生交換等の実績があまりない

外国人旅行者受け入れ態勢の未整備(案内書、外国語案内、案内標識、宿泊施設、飲食施設、土産物、アトラクション)

(O)「韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢」の招致、受入 JC を中心とする岩見沢市の市民レベルにおける観光振興の重要性の認識の高まり

札幌来訪外国人旅行者(今後は中国、韓国などからの富裕層の来訪の増大も予想されている。)の雪祭り等の際の札幌市の受け入れ能力の不足を補うための岩見沢への受入の可能性

外国人修学旅行生や留学生の受入、交流の促進の可能性（北海道教育大学岩見沢分校、駒大岩見沢高校の寮等の活用の可能性？）

シンガポール、タイ等で盛んな外国人旅行者に対する医療観光の導入の可能性

北海道教育大学岩見沢校、駒沢大学附属岩見沢校等の観光振興への参画の可能性

陸上自衛隊岩見沢駐屯部隊の観光振興への参画の可能性（山形市の「花笠踊り」においては自衛隊駐屯地からの参加に対する評価が高く、市民の人気を博している）

(T)小樽、旭山動物園、富良野、三笠等の先発観光地との誘致競争の激化

英語、中国語、朝鮮語などの通訳ガイドの不足

団体旅行者受入態勢の未整備

“韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢”の招致、受入で盛り上がった外国人旅行者受入促進の気運が一過性のもので終わってしまう可能性

札幌への通勤者が多く、ベッドタウン化している現状で多くの市民の参加を得ての外国人旅行者の受入施策の推進の困難性

## 7 今後の方向

岩見沢市は札幌のベッドタウンの機能を果たす都市として認識されており、観光魅力（特に国際的な）のある都市としては認識されていない。また、近隣には旭山動物園で名をはせた旭川、ラベンダー畑で有名な富良野のような強力な先進観光地が存在しており、これらの都市に伍して岩見沢市が外国人旅行者の観光目的地として頭角を現していくのは容易ではない。

しかし、岩見沢市の観光資源をチェックしてみると JR 岩見沢駅、レールセンター、旧操車場跡地等の鉄道関連施設、宝水ワイナリー、岩見沢公園バラ園、あやめ公園、スキー場、ゴルフ場、温泉、利根別原生林、利根別川千本サクラ並木、ふるさと毛陽等多様な歴史文化資源や自然資源が存在し、ドカ雪祭り、ふるさと百餅祭り、ウォーキング・フル・マラソン等潜在的な可能性を感じさせられるイベントやアトラクションが存在している。

土産品としては日本酒「ゆあみさわ」、カボチャ焼酎「南酔」、宝水ワイン、天狗まんじゅう、こぶし焼きなどがあるが今一つの多様化と洗練が求められる状況である。

飲食サービスは今後のより一層の努力が必要とされる水準であり、宿泊施設は外国人旅行者を受け入れられる施設は極めて限られており、ガイドの養成、外国語案内標識の整備等を含めて外国人旅行者のための受入態勢の整備を急ぐ必要がある。

当面の取り組みとしては、「サッポロ雪祭り」等の際の札幌市内における外国人旅行者受入のための宿泊能力の不足が指摘されており、札幌とのアクセスの良さからアジア地域か

らの外国人旅行者などの雪祭りの際等の補助的な宿泊・立寄り先として岩見沢市を活用することから始めてはいかかと思われる（当面の宿泊施設としては学校の寮の活用などが考えられ、通訳案内に関してはとりあえずは市民ボランティア、青年海外協力隊 OB、大学生、高校生（将来的には留学生も含む）などによる善意通訳に頼ることを検討してはいかかと思われる。

現在観光庁を中心にして訪日外国人旅行者を 2010 年までに 1,000 万人にすべく官民を挙げて取り組んでいるところである。この結果、訪日外国人旅行者数は、経済状況の低迷、インフルエンザの発生等により停滞や後退を余儀なくされながらも増加傾向にあり、2010 年に 1,000 万人を見込めるところまできている。

また、訪日外国人旅行者は 1987 年にアジアからの外国人旅行者が過半を越え、現在は 70% 近くを占めるようになってきている。特に、韓国からの旅行者の増大は著しく、加えて、最近では中国からの旅行者の伸びが目立っている。

1998 年に発表された「21 世紀の国土のランドデザイン」において、「地域の振興を推進するためには定住人口の増大から交流人口の増大へ」という提言がなされており、国内旅行者の誘致に努めることは当然として、海外からの旅行者の誘致に勤めることの重要性が認識され、2003 年から開始された「ビジット・ジャパン・キャンペーン」のもとに各地方自治体が激しい外国人旅行者の自らの地域への誘致競争を展開するに至っている。

2009 年 8 月の衆院総選挙の結果を踏まえて新たに鳩山内閣が発足した。同内閣の国交相に任命された前原誠司氏は、「訪日外国人を 2020 年 2000 万人にする」という観光庁の施策を、2016 年に期限を前倒しにする方針を示しており、アジア地域一特に韓国、中国一からの旅行者の誘致に力を入れようとしている。

このような状況を踏まえて、岩見沢市においても“韓国舞踊 日本公演 in 岩見沢”の招致、受入を契機として、海外（特にアジア地域）からの旅行者の誘致に市民の参画を得て取り組んでいくことが必要である。

旭山動物園で人気を呼んでいる“行動展示”は、閉園寸前にまで追いつめられた動物園の職員からの、日常接している動物の生きている姿そのものが魅力的であることを来園者に見せる“行動展示を導入してはどうか”という提案がもとになって今日の発展を招いており、富良野のラベンダーも一市民の栽培努力から始まり、現在の地域を挙げてのお花畑の展開につながっている。

今回の限られた期間内の個人的な見聞では、岩見沢市は鉄道の街として歴史、美しい自然及び多様で豊かな農産物の 3 つが観光魅力として根幹をなすのではないかと考えている。

取りあえずの具体的な提案としては、自動車で岩見沢にきてふるさと毛陽のスパ・イン・メープルロッジで昼食をとってくつろぎ、宝水ワイナリーでワイン醸造所を見学してワインを購入し、岩見沢公園バラ園（現在のバラの水準と土産物では迫力が不足していると言わざるを得ないが）で散策を楽

しんで、新しい岩見沢駅構内で飲食を楽しんで土産物を購入（いささか乱暴な提案であるが、【完全なエアコンディション可能な空間となっており、特に寒さの厳しい冬季には過ごしやすくなる】岩見沢駅構内に中心市街地に散在する飲食施設と土産物店を取り込む【JR 岡山駅や広島駅に先例がある】ことが考えられる）して岩見沢を去るという1日コースが考えられる。



宝水ワイナリーの全景

岩見沢市においては地域の宝を皆で発掘して開発し、観光振興の発展を図って行くことが望まれる。

なお、本稿はあくまでも筆者個人の見解であることをお断りしておきたい。